

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ● 第91回 ●

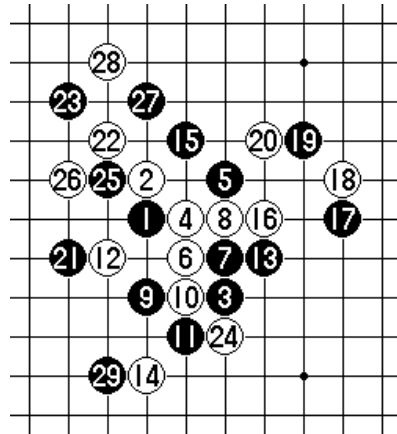
#### ■ 名人戦2次予選反省

今年、3年ぶりにA級リーグに出場することができた。昨年は2次予選で敗退、今年こそはと臨んだ。今回はその2次予選を振り返ってみたい。

最近、遊星の研究に夢中である。もともとは連珠世界に「遊星ガイド」を載せるために研究し始めたのだが、先のチーム戦で大流行しているのを見て弾みがついた。遊星はなかなか従来の形に戻るものが少なく、遊星独自の形になるのが多いのが魅力である。それだけ研究のしがいがあるということだ。

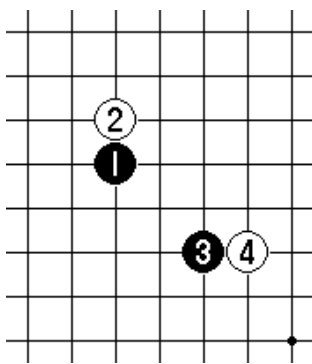
第1局は長谷川戦。仮先になつたら遊星を打とうと決めていたので、遊星を打った。予想通りに交替され

白4を疎星共通形にされる。ただ、八題は多いと思った。それで白を持ったのだが、実際に八題打たれてみると結構迷う。結局、溪月共通形を選ぶことになった。



白6は7と引くより良いと思つた。対して黒7、9は意外だった。白10、12と打つては早くも負けにくい展開となつた。黒15も予想通り。黒17も長谷川氏ならこう打つてくると思つていた。長く対局しているとなつて考えているかわかるようになってくるものである。しかし、黒19はさすがに

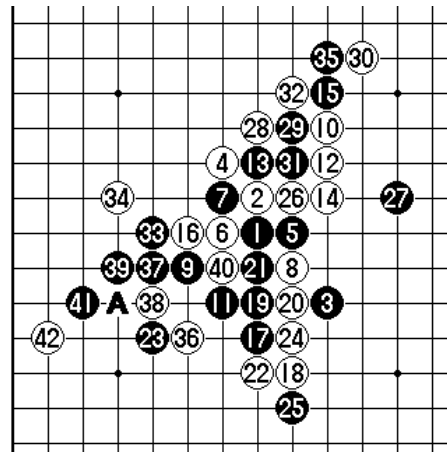
予想外だった。このあたりは形勢をどう見ているかが判断基準となるだろう。白は急所に石が来ているものの、まだ薄いのでなかなか勝ちには至らない。黒21、29と急所に先着されては早くも満局模様である。この後攻めてはみたが、勝ちではなく満局となつた。さて、そうなる隣対局も気になる。飯尾―館戦であるが、同じく遊星で始まつた一局は、館君が大胆な作戦を披露していた。



白4！で八題の提示であつた。さすがにこれは通用しないなりと横目で見ていたら、飯尾さんの五珠提示

が悪く、何だか混戦に。そして短手数で館君が勝ってしまった。昨年は飯尾さんが全勝で突つ走つたことを考えると、全く逆の展開である。この時点で館君がトップに立つた。

2回戦。昨年は飯尾さんに息の根を止められたが、今年は逆の立場だ。しかし、本局は反省することが多い局だった。やはり遊星でスタート。チーム戦の棋譜を見ていたので、必ず飯尾さんならこ



う打つてくると予測していた。そこで研究勝ちをする予定が、研究漏れをしていた。全く恥ずかしい限りである。

白4と四題を打てばあとはお互いが合意済みのような感じです。ここで白36と打って防いでいるというのが研究であったが、よく読んでみると、黒37をAと打てば黒勝ちであった。やばいと思っていたら黒37。これはさすがに筋が悪い。どうもこの日の飯尾さんは不調だったようで、読みが抜けていたようだ。後で調べたところ、上辺で三を引いて突き出せば四追い三々禁の含み手が打てた。また、白28から打ち変える手もあり、研究課題と言えそう。このように遊星は未解決の局面が多く、研究勝ちをした方が当分は勝てるだろう。

もう一局の長谷川・舘戦

は満局。2局を終わって、河村、舘が共に1.5ポイントでトップに立つという、全く昨年と逆の展開になった。飯尾さんは2敗で脱落、少なくとも昨年と同じメンバ―ではなくなつた。

ここで最終局の状況を整理すると、

①長谷川負けなら河村、舘が通過

②長谷川満局なら河村、舘戦が満局で2人通過

③長谷川勝ちなら長谷川通過、残り1枰を河村と舘で争う

という状況になった。最終局は隣の対局を見ながらの戦いとなった。

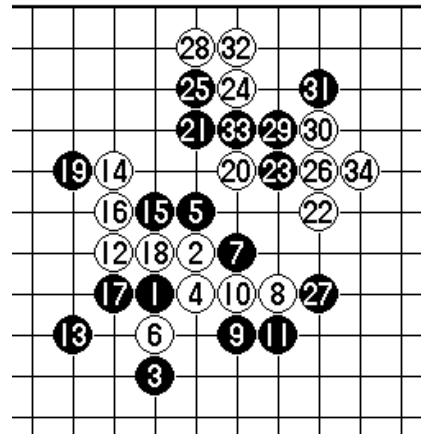
当然飯尾さん頑張れと思

いながら見ているのだが、おそらく長谷川氏は勝つだろうと思つていた。

予想通り長谷川氏が勝ち、本局が2つ目の通過枰をかけた戦いとなった。

さて、飯後となつたので、何が来るか予想できなかった

たが、予想外の明星を指定された。



あまりいい作戦が思いつかなかつたので相手に任せ、次も予想外の白4。白を取ったが案外いい手が見えない。「相手の研究を外す」というのを目標に手を探した。そこで見つけたのが白6、8。ただ黒9が冷静であり局面が思わしくない。白12は開き直つた手なのだが、舘君の方も白模様に覚えてしまったのだらう。黒13は攻めと言うより守り重視の一手だ。

こうなると攻めたくなる。白20からは半ばごまかしに行つた手で、相手の時間を使わせる狙いもあった。白22と打つて案外手になつてきたなど感じ、白24でなかなか止めづらくなつてきた。このあたりで長谷川勝ちの局面となり、お互いに気持ちの持ち方が難しい時間となつた。

冷静に見ればまだまだ黒は打てたのだが、舘君はかなり局面を悲観していたらしく、残り時間が1分を切つてもまだ考えていた。

(10手10分で9手残つていた)局面が悪くても時間は残しておかないと、勝てなくなる。このあたりは舘君の反省材料だろう。

白34で何とか勝つことができ、無事トップ通過することができた。

久しぶりのA級リーグ、四珠交替を楽しんで打ちたい。そして何とかシードは持ち帰りたいと思つている。